

編集後記

本誌に「東京を歩く」を掲載した。これが4回の連載の最終回となる。これも60歳時にⅡ型糖尿病になったおかげである。というのも変だが、主治医からは体重を減らし、食事に気を付け、そして歩きなさいと言われた。ただ歩くのはつまらないと思い、専門が水産学だったこともあり川筋を歩くことにした。と言っても交通費をあまりかけたくなかったので武蔵野台地の川筋を歩くことにした。このおかげで武蔵野台地や川の成因の勉強を大分した。タクシー運転手に行先を告げる際に山手なら坂の上下を言い、下町の場合は橋の手前か渡った先を告げるといいといわれたことがある。元々、地理が好きだったこともありウォーキングにはまってしまい、武蔵野台地の川筋はほとんど歩きつくし、その次は東京低地の川筋を歩いた。現在は、氷河期の後氷期に当たるが、氷河期には海面が130mも下がり東京湾口からが海となったとのこと、東京湾には古東京川の跡があるとか。そして縄文海進時には東京低地は海となり京浜東北線の上野から赤羽に続く海食崖が発達していとのことである。その後、対象は富士塚のある神社に移り、山城を訪ね、今は23区内の坂道を歩いている。これも川筋に関係している。

最初は家内と歩いていたのだが、膝が痛いと言い出しリタイアしたので、現在は娘の長男、すなわち孫と一緒に歩いている。これもⅡ型糖尿病になったお陰(?)である。人間万事塞翁が馬を実感している。 (會田 勝美)